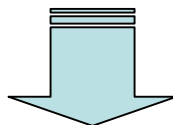


# 大橋川沿川における現況景観について

平成18年1月26日

# 1. 大橋川沿川の現況景観に関する整理・分析の流れ

○大橋川の現況把握調査(既存資料調査・現地踏査)

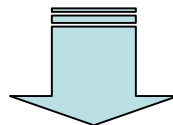


○大橋川沿川の景観要素の抽出・整理

「観光・歴史」、「生活・文化」、「自然」の各観点から抽出・整理

<整理結果>

- ・観光・歴史的景観要素分布図
- ・生活・文化的景観要素分布図
- ・自然面からみた沿川現況図



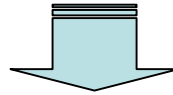


## ○大橋川の景観的特性の整理

- ・抽出された景観要素を実際の「眺め」から検討
- ・区域ごとの景観特性を整理

### <整理結果>

- ・景観特性整理表
- ・景観特性区分図



## ○景観特性を踏まえた事業実施のポイント

整理結果を踏まえ、今後の治水・まちづくり事業によって注目すべきポイントを整理

### <整理結果>

- ・治水・まちづくり事業において注目すべきポイント一覧

## 2. 大橋川の現況把握調査について

### <実施項目>

- 現地踏査による写真撮影
- 既存資料の収集・整理
- 既往アンケートからの情報収集

### 【既往アンケートからの情報収集結果について】

アンケート名：「宍道湖周辺の水辺まちづくりアンケート」

調査主体： NPO法人まちづくりネットワークしまね

## 【既往アンケート 実施概要】

- **調査目的**: 公共事業と住民の関わり方について、アンケートを実施し、今後のまちづくりのあり方やNPOとしての活動の方向性を検討する。
- **調査対象箇所**: 宍道湖周辺の7箇所。
  - ① 斐川なぎさ公園、② 宍道湖グリーンパーク、③ 秋鹿なぎさ公園、④ 堀川(堀川めぐり)、⑤ **大橋川**、⑥ 岸公園(県立美術館)、⑦ 嫁ヶ島残照
- **調査方法**: ・会員・協力者に対する戸別の紙面アンケートの配布・回収  
・インターネットによる回答
- **調査地区**: 宍道湖周辺5市町(松江市、平田市、斐川町、宍道町、玉湯町)、インターネットアンケート(広域)
- **調査期間**: 平成16年10月30日～平成17年1月15日
- **アンケート回収数**: 紙面アンケート608、インターネットアンケート26 計634

## 【既往アンケート結果】

### 大橋川に関する周辺住民の意識

- 大橋川が好きな理由として、4割近くが「**景観の良さ**」を挙げ、もっとも多い理由となっている。
- 大橋川は、**約9割の住民が知っている**。
- 大橋川には**約8割の住民が実際に行っており**、調査対象箇所の中ではもっとも高い率となっている。
- 大橋川には**約3割の住民が「よく行く」と答えており**、**散策に利用**されることが多い。

## 【既往アンケート結果】

### 大橋川に関する周辺住民の意識

#### 【好きな理由(主な自由意見)】

- ・街中で落ち着ける場所
- ・周囲の店に寄り道しながら散歩が楽しめるので
- ・多様な生物が多く棲み、他県に誇れる川だと思う
- ・川沿のヤナギが素敵
- ・漁など生活の歴史を思いおこさせる
- ・レガッタの会場として楽しんでいる                      他

#### 【良くない点】

- ・水面のごみ
- ・護岸が汚い

### 3. 大橋川沿川の景観要素の整理

#### <景観要素抽出の考え方>

観点	具体的な要素	
観光・歴史	有形的要素	・観光施設 ・橋梁 ・神社・仏閣（古墳含む） ・老舗旅館
	無形的要素	・祭り・イベント ・遊覧船の運航 ・舟運（歴史的・観光的特徴をもつもの）
生活・文化	有形的要素	・水辺の建造物（宅地・集落、商業施設等） ・沿川道路 ・護岸
	無形的要素	・シジミの漁場 ・レクリエーションの場（散策、釣り） ・舟運（人・物資の移動）
自然	・動植物 ・大橋川の水面	・農用地 ・稜線 ・公園・緑地

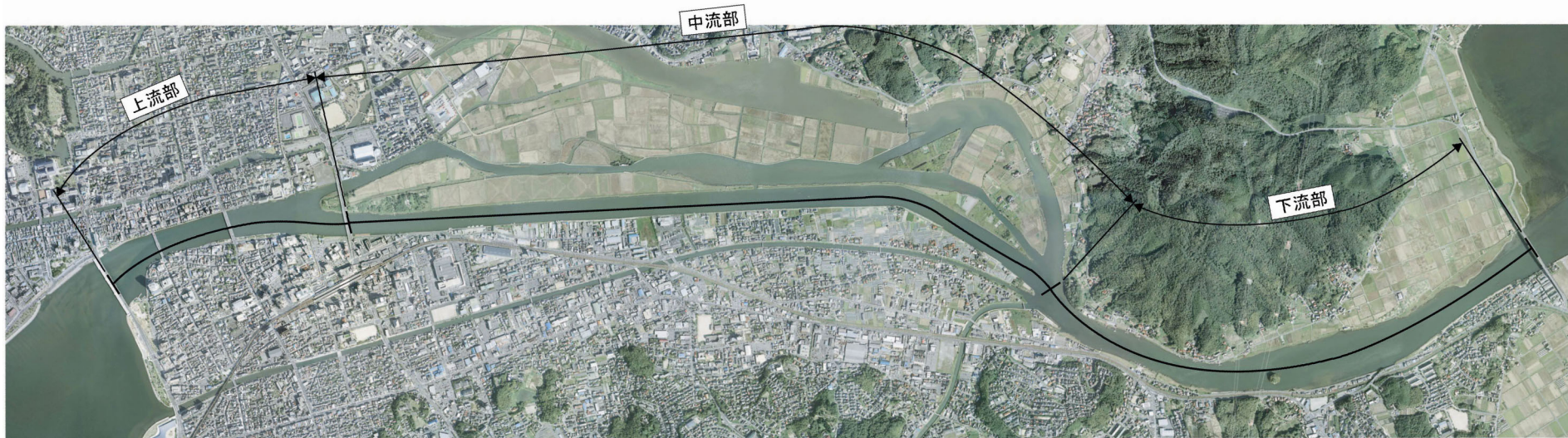


## <分析を行ううえでの区分>

【上流部】 松江市の中心市街地部にあたる：**宍道湖大橋～くにびき大橋**

【中流部】 剣先川、朝酌川などに挟まれた形で中の島や中州が位置する：  
**くにびき大橋～朝酌川合流点**

【下流部】 **朝酌川合流点～中海大橋**



## <観光・歴史面からみた景観要素>



図3-1 観光・歴史的景観要素分布図

## <観光・歴史面からみた景観要素>

### 【上流部】

- ◆ 約400年前に初代の橋が架けられてから17代目となる**大橋**は「水郷松江」の象徴的な施設の一つとして位置づけられる。
- ◆ 「源助柱記念碑」などの**ポケットパーク**が立地する。



大橋



源助柱記念碑

# <観光・歴史面からみた景観要素>

## 【上流部】

- ◆ 左岸側には、老舗旅館など、歴史的建造物が位置する。



皆美館



大橋館



松江シティホテル

# <観光・歴史面からみた景観要素>

## 【上流部】

- ◆ 大橋川の北側(通称:橋北地区)1km程度の圏内には、松江城、松江郷土館、武家屋敷、普門院、カラコロ工房などの観光資源がある。



松江郷土館(興雲閣)



武家屋敷



松江城



カラコロ工房

## <観光・歴史面からみた景観要素>

### 【上流部】

- ◆ 南側(通称:橋南地区)1km程度の圏内には、**売布神社**をはじめとする神社や多くの寺院が建ち並んでいる。



売布神社

### <その他>

- ◆ 毎年秋に、伝統行事「**松江祭鬘行列(どうぎょうれつ)**」が行われる。
- ◆ 毎年、夏の風物詩である「**水郷祭**」が宍道湖とその周辺で行われる。
- ◆ **宍道湖観光遊覧船**の発着場が位置し、遊覧船が航行する。  
→中流部の松江港にも発着場が位置し、中流部と共通の要素

# <観光・歴史面からみた景観要素>

## 【下流部】

- ◆ 神在月10月に佐太神社より神々が集まるとされる**多賀神社**や境内北側にある**魚見塚古墳**が左岸側に位置する。



魚見塚古墳



多賀神社

## <観光・歴史面からみた景観要素>

### 【下流部】

- ◆ 右岸よりの河道内に塩楯島が位置する。島内には手間天神社がある。
- ◆ 出雲国風土記にも記述が残る古くからの歴史を持つ渡し舟「矢田の渡し」がある。現在は観光船の機能をもった大橋川周遊遊覧船が発着する。



手間天神社



矢田の渡し



# <観光・歴史面からみた景観要素>

## 【下流部】

- ◆ 右岸側に前方後円墳としては出雲地方で第二の規模を誇る手間古墳や石屋古墳などがある。



石屋古墳



手間古墳

## <生活・文化面からみた景観要素>

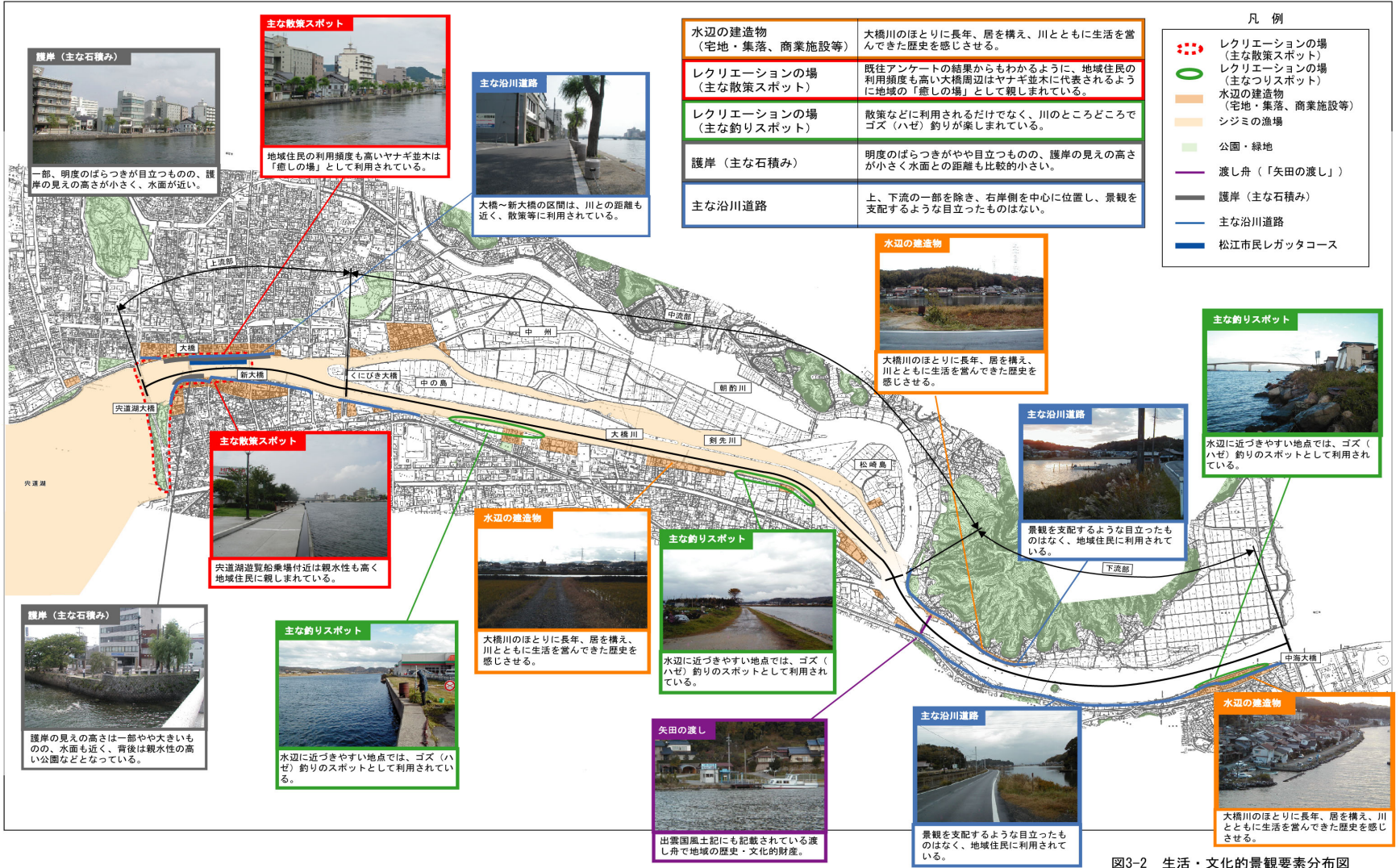


図3-2 生活・文化的景観要素分布図

0 50m

## <生活・文化面からみた景観要素>

### 【水辺の建造物(宅地・集落、商業施設等)】

大橋川のほとりに長年、居を構え、川とともに生活を営んできた生活の歴史を感じさせる。



下流部左岸



下流部右岸

＜生活・文化面からみた景観要素＞

【水辺の建造物(宅地・集落、商業施設等)】



上流部右岸



中流部右岸

# ＜生活・文化面からみた景観要素＞ 【レクリエーションの場(主な散策スポット)】

川沿いの散策場は地域の「癒しの場」として親しまれている。

特にヤナギ並木は地域住民の利用頻度も高い。



上流部左岸



上流部右岸

## <生活・文化面からみた景観要素>

### 【レクリエーションの場(主な釣りスポット)】

散策などに利用されるだけでなく、川のところどころでゴズ(ハゼ)釣りが楽しまれている。



中流部右岸



下流部右岸

# ＜生活・文化面からみた景観要素＞ 【護岸(主な石積み)】

明度のばらつきがやや目立つものの、護岸の見えの高さが小さく水面との距離も比較的小さい。



上流部左岸



上流部右岸

# ＜生活・文化面からみた景観要素＞ 【主な沿川道路】

上、下流の一部を除き、右岸側を中心に沿川道路が位置する。  
景観を支配するような目立ったものはない。



上流部左岸



中流部左岸



下流部右岸



## <自然面からみた景観要素>

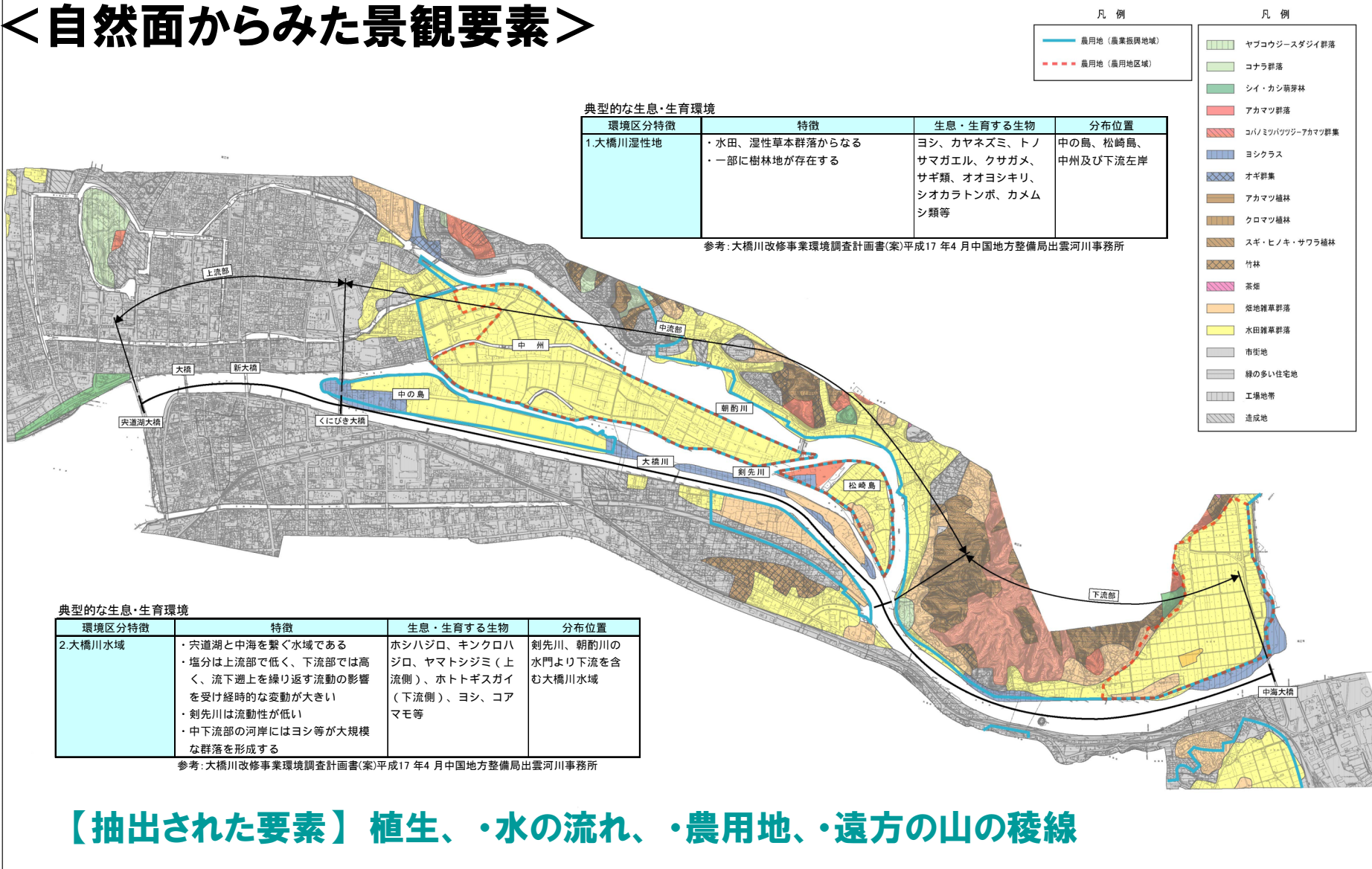


図3-3 自然面からみた沿川現況図



## <自然面からみた景観要素> 【上流部】

- ◆ くにびき大橋の上流側の中の島水際部には、ヨシ等の湿生植生がみられる。
- ◆ 水の流れは、比較的ゆるやかである(全区間共通)。
- ◆ 水面から護岸上部までの差高が小さい(全区間共通)。



## <自然面からみた景観要素> 【中流部】

- ◆ 中の島および中州や松崎島には、水田が広がっている。また、水際部を中心にヨシ等の湿生植生が分布し、水鳥等の生息地として機能している。
- ◆ 川と水田・水路などが織り成す大橋川独特の自然景観が広がる。



松崎島



剣先川～中の島～大橋川

## <自然面からみた景観要素> 【中流部】

- ◆ 右岸側の松江港などから左岸側をみた場合、背後に嵩山、和久羅山からのびる稜線も確認できる。



嵩山、和久羅山からのびる稜線

## <自然面からみた景観要素>

### 【下流部】

- ◆ 最下流部の左岸側1 km程度の範囲には、**水田**が広がっている。
- ◆ 最下流部左岸側の数百メートルの区間は**ヨシ等の湿生植生**などが広がり、**水鳥等の生息地**としても機能している。
- ◆ 左岸側の多賀神社周辺はシイなどの常緑広葉樹からなる**鎮守の森**が残されている。



最下流左岸側の水田と湿生植生



多賀神社の鎮守の森

## 4. 大橋川の現況景観のまとめ

### <景観を構成する要素の整理(観光・歴史)>

上流	<ul style="list-style-type: none"><li>・神社・仏閣</li><li>・橋梁(大橋)</li><li>・公園(源助公園等)</li><li>・ホーランエンヤ</li><li>・どう行列</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・各種観光施設</li><li>・老舗の旅館等</li><li>・宍道湖観光遊覧船の航行</li><li>・水郷祭</li></ul>
中流	<ul style="list-style-type: none"><li>・宍道湖観光遊覧船の航行</li><li>・ホーランエンヤ</li></ul>	
下流	<ul style="list-style-type: none"><li>・多賀神社</li><li>・「矢田の渡し」</li><li>・大橋川周遊遊覧船</li><li>・古墳(手間古墳、石屋古墳、魚見塚古墳)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・手間天神社(塩楯島)</li><li>・ホーランエンヤ</li></ul>

## <景観を構成する要素の整理(生活・文化)>

<p style="text-align: center;"><b>上流</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宍道湖大橋から大橋周辺の散策スポット</li> <li>・宅地・商業施設の隣接</li> <li>・護岸(石積み、コンクリート)</li> <li>・植栽(ヤナギ並木)</li> <li>・シジミの漁場</li> <li>・沿川道路</li> <li>・松江市民レガッタ</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>中流</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宅地・商業施設の隣接(一部区間)</li> <li>・護岸(石積み、コンクリート)</li> <li>・沿川道路</li> <li>・シジミの漁場</li> <li>・ゴズ(ハゼ)釣りスポット</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>下流</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「矢田の渡し」</li> <li>・ゴズ(ハゼ)釣りスポット</li> <li>・宅地・商業施設の隣接(一部区間)</li> <li>・沿川道路</li> <li>・護岸(コンクリート)</li> </ul>

**<景観を構成する要素の整理(自然)>**

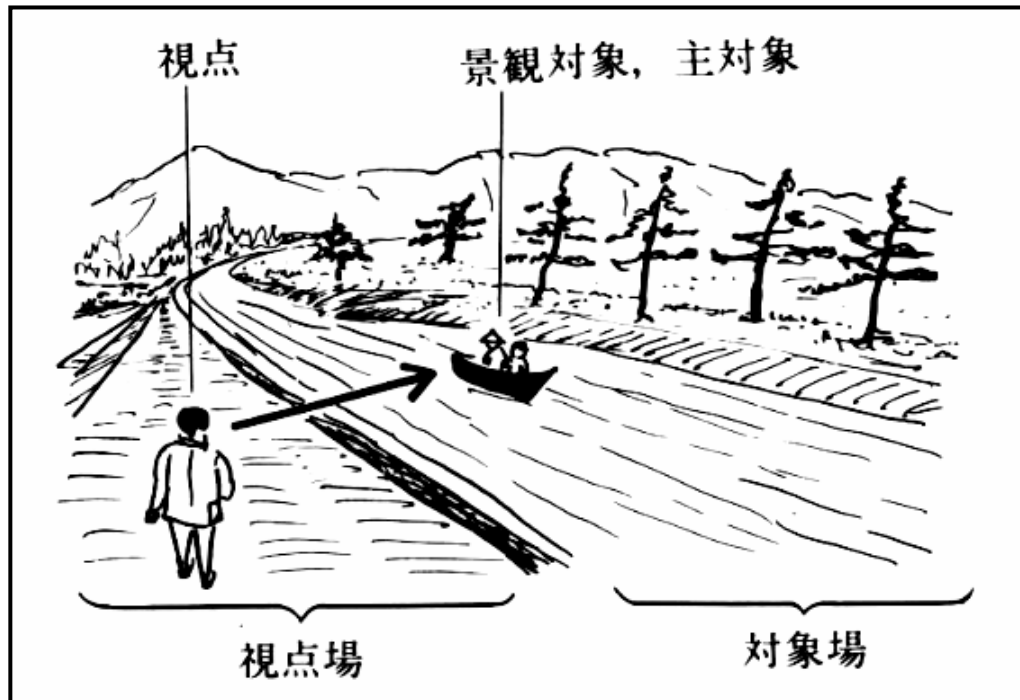
<b>上流</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・中の島の湿生植生</li><li>・緩やかな水の流れと水面の近さ</li></ul>
<b>中流</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・中の島、中州、松崎島の水田</li><li>・中の島、中州、松崎島水際付近の湿生植生と水鳥等の生息地</li><li>・緩やかな水の流れと水面の近さ</li><li>・嵩山、和久羅山からのびる稜線</li></ul>
<b>下流</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・左岸側の水田</li><li>・多賀神社の鎮守の森</li><li>・湿生植生と水鳥等の生息地</li><li>・緩やかな水の流れと水面の近さ</li></ul>



## <大橋川の景観特性の整理>

### ◆河川景観の眺めの4タイプ

- ①**流軸景**: 橋の上などから、流れの方向に向かって河川を見る眺め。
- ②**対岸景**: 流れの方向とほぼ垂直に対岸方向を見る眺め。
- ③**俯瞰景**: 河川空間外の高い地点から一望をもとにおさめる眺め。
- ④**水上景**: 船などに乗って人が水上を移動し、その移動に伴って徐々に変化していく河川の景観を楽しむ眺め。



視点場の定義

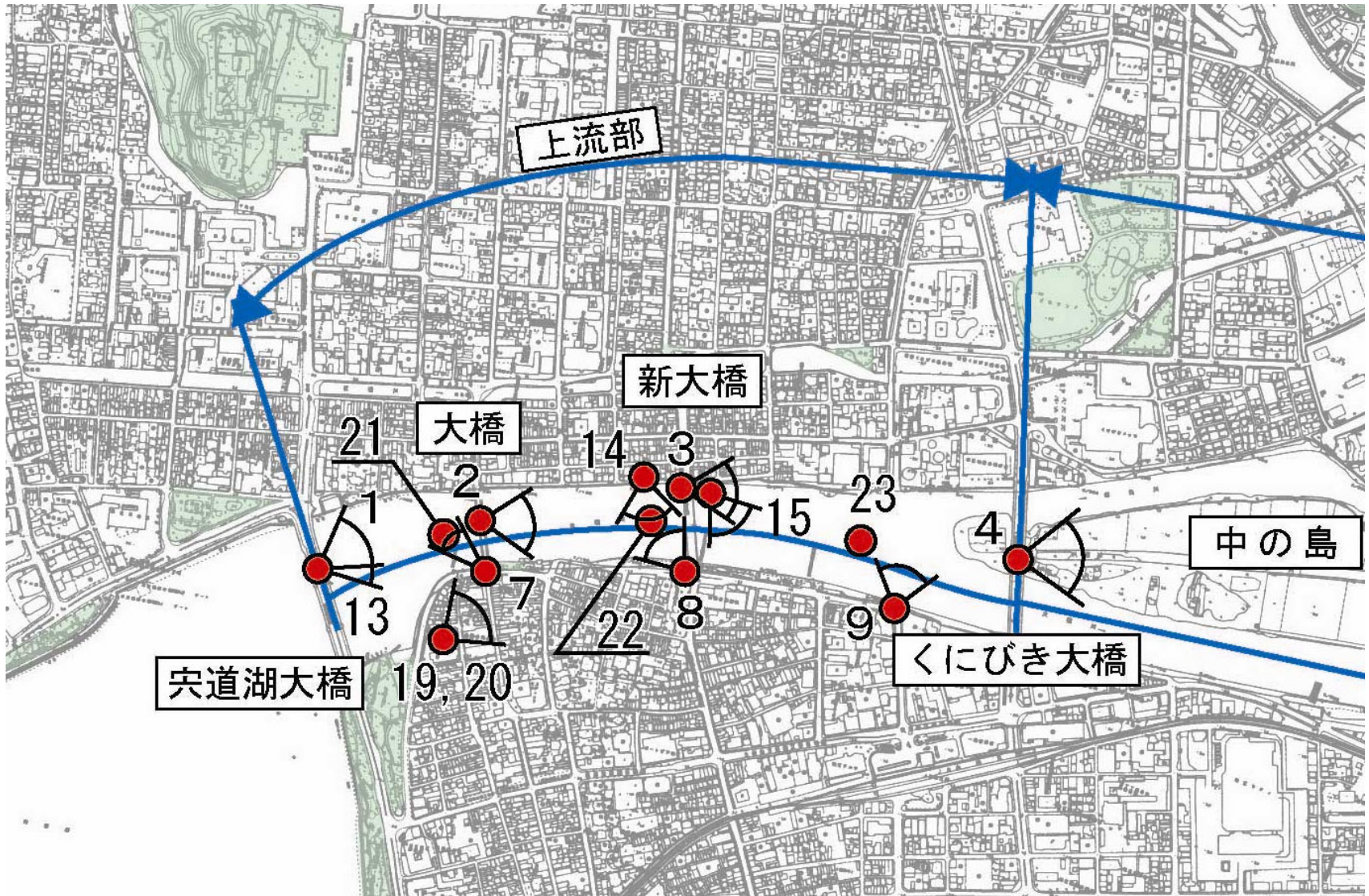
(出典:水辺の景観設計(土木学会))

## ◆眺めのタイプ別の景観の特徴と景観形成上のポイント

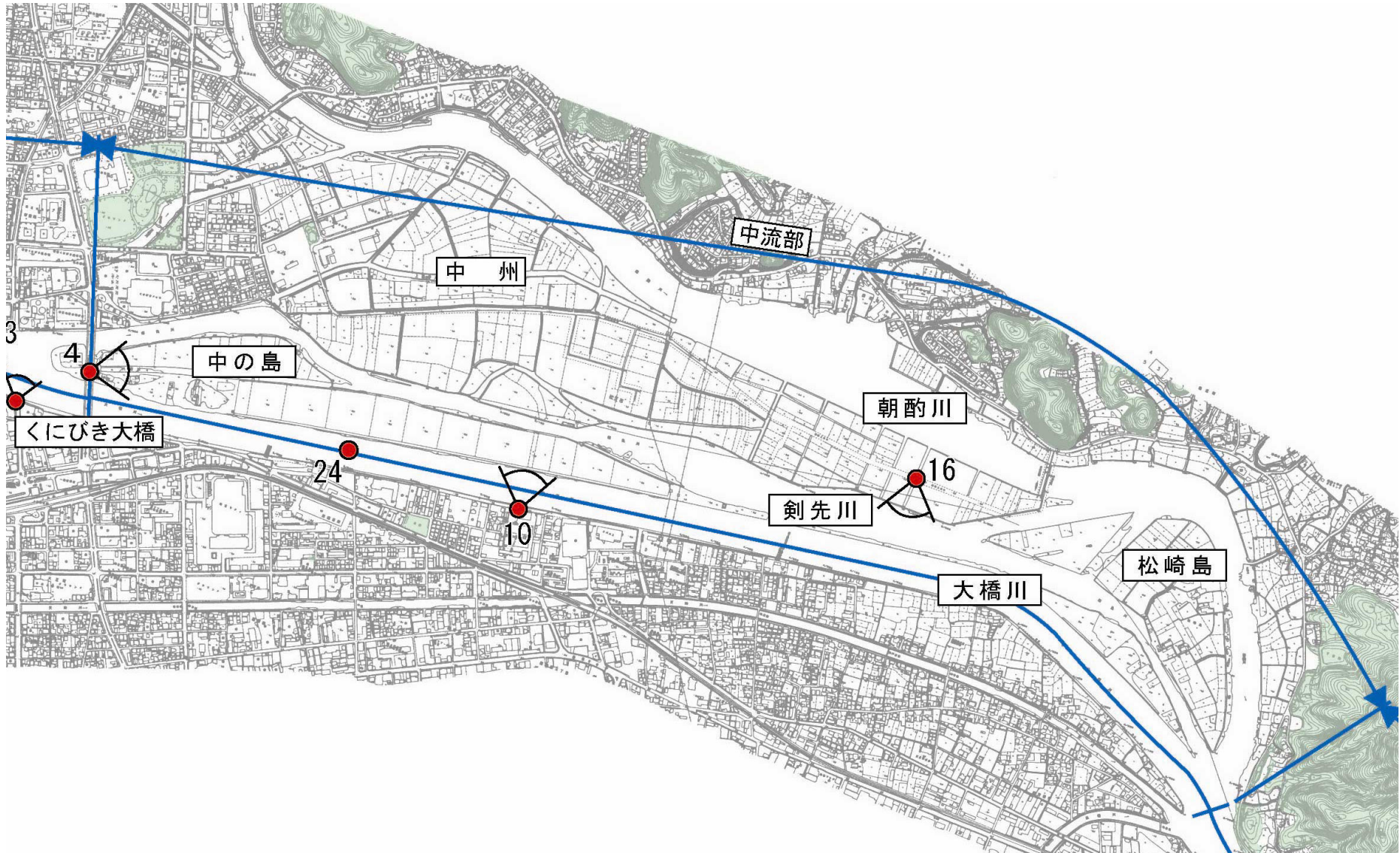
項目	景観の特徴と景観形成上のポイント
流軸景	川の流れの方向に向かって河川を見る眺めのタイプ。奥行感のある眺めが得られ、護岸の平面形状に注意がいきやすい。
対岸景	川の流れの方向とほぼ直角に対岸方向を見る眺めのタイプ。すべてが帯状に重なった平板な眺めになりやすく、護岸の大きさに注意が行きやすい。
俯瞰景	川とその周りの広い範囲を一望のもとにおさめる眺めのタイプ。川の全体的な形と周囲の関係が意識され、護岸の大きさや細かな表情は認識できない。
水上景	船などに乗って移動しながら変化する川の景観を楽しむ眺めのタイプ。護岸や堤防を近くから見上げる眺めとなるため、護岸の細かな表情までが認識しやすい。

## ◆考察の範囲の設定(視点場の位置)

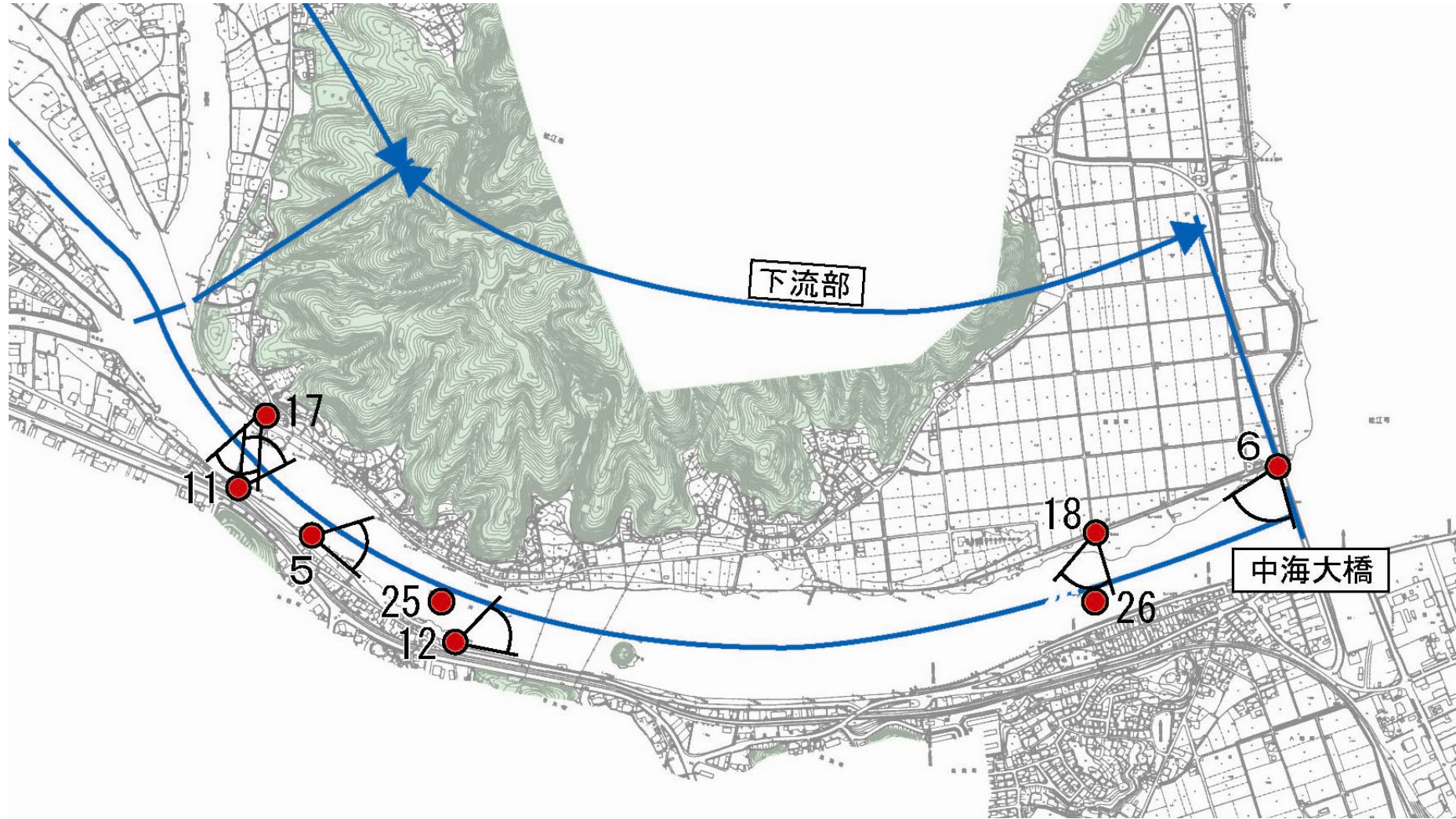
## 【上流部の視点場】



# 【中流部の視点場】



【下流の視点場】



## ＜景観特性に関する考察＞

### ●流軸景に関する考察

#### 1. 宍道湖大橋付近を視点場とした場合

- ◆大橋川の特徴である呑み口部から大橋にかけての緩やかな線形とともに大橋の歴史を感じさせる欄干も確認できる。
- ◆右岸側には高層の山陰合同銀行本店ビルが位置する。
- ◆左岸側は、老舗旅館や旅館の庭園等が位置する。



宍道湖大橋より下流方向を望む

◆左岸側背後には、嵩山、和久羅山からのびる稜線も確認できる。



宍道湖大橋より下流方向を望む

## 2. 大橋付近を視点場とした場合

- ◆川とその背後の建物の距離が非常に近い。
- ◆新大橋や中の島、左岸側背後の嵩山、和久羅山からのびる稜線も確認できる。



大橋より下流方向を望む



◆護岸に関しては、見えの高さが小さく、水面への視線を遮る構造物も少ない。



大橋北詰より下流方向左岸沿いを望む



大橋より下流方向右岸沿いを望む

### 3. 新大橋付近を視点場とした場合

◆新大橋付近は、昔ながらの住宅などが存在し、水際にはシジミの選別などが行われている。



新大橋北詰より下流方向左岸沿いを望む



新大橋付近左岸より下流方向を望む

### 3. 新大橋付近を視点場とした場合 (流軸景)

- ◆くにびき大橋付近では、マンションや高層・低層の商業ビルが目立つ。
- ◆くにびき大橋付近から始まる中の島の緑は、自然の豊かさを感じさせる。
- ◆左岸側背後には、嵩山、和久羅山からのびる稜線も確認できる。



新大橋より左岸側下流方向を望む



新大橋より下流方向右岸側を望む

## 4. くにびき大橋を視点場とした場合

- ◆上流部と異なり、左岸側は河川に隣接した高層ビルなどがなく、水田や緑地などが中心の自然豊かで開放的な眺めとなる。
- ◆右岸側には松江港や商業施設、左岸側背後には和久羅山からのびる稜線も確認できる。



くにびき大橋より下流方向を望む

## 5. 朝酌川合流点付近を視点場とした場合

- ◆左岸に丘陵が迫るとともに、流路が蛇行しており、中流部のような開放感はない。
- ◆河道内の右岸よりに塩楯島が位置し、景観にアクセントを与えている。
- ◆川沿いに宅地が分布し、護岸と水面との差高は小さい。左岸側の集落は建物の高さ、屋根瓦の色彩にばらつきが少ない。



朝酌川合流点付近より下流方向を望む

## 6. 中海大橋を視点場とした場合

- ◆視点場として高さがあり、俯瞰景に近い雄大な眺めとなる。
- ◆左岸側一体が水田地帯となっており、開放的な眺めとなっている。



中海大橋より上流方向を望む

- ◆左岸側には、ヨシなどの湿生植生もみられ、自然の豊かさを感じさせる。
- ◆右岸側は管理用通路を挟んだすぐの川沿いに比較的大きな集落があり、生活感を感じさせる眺めとなっている。



中海大橋より上流方向右岸沿いを望む



中海大橋より上流方向左岸沿いを望む

## ●対岸景(左岸側)に関する考察

### 7. 宍道湖大橋～大橋

◆老舗の旅館やホテル、また、(大橋からは)松江城も確認でき、松江市の歴史を感じさせる眺めとなっている。



大橋南詰付近より対岸を望む



- ◆一方で、商業用ビルや看板なども見受けられる。
- ◆また、護岸の見えの高さも大きく、石積みとコンクリートの材質の違いがやや目立っている。



大橋南詰付近より対岸を望む

## 8. 大橋～新大橋

- ◆老舗旅館、見えの小さい護岸、ヤナギ並木、おだやかな水の流れなどが特徴となっている。
- ◆周辺のビルは極端な高さのものではなく、同程度の高さで並んでいる。



新大橋南詰付近より対岸を望む

## 8. 大橋～新大橋(対岸景:左岸側)



大橋～新大橋中間地点付近より対岸を望む

## 9. 新大橋～くにびき大橋

- ◆マンション、ガスタンク(撤去中)、近代的建造物(公共施設)などが混在した都市化を感じさせる眺めとなっている。
- ◆護岸は、石積み、コンクリート、蛇籠など、地点ごとに違いがみられる。



くにびき大橋の上流側200m付近より対岸を望む

◆一方で、新大橋付近には宅地、公園などが存在し、松江市民の生活・文化を感じさせる。



新大橋南詰付近より対岸を望む

## 10. くにびき大橋～朝酌川合流点

- ◆中の島、中州、松崎島が位置し、ヨシなどが繁茂しており、自然の豊かさを感じさせる。
- ◆くにびき大橋の背後には、郊外型の比較的新しい建造物が立ち並び、さらに背後には島根半島の山々からのびる曲線的な稜線が確認できる。



くにびき大橋右岸側たもと船着場付近より対岸を望む



宍道湖遊覧船第一のり場付近(くにびき大橋よりの中流部右岸)より対岸を望む 54

◆朝酌川合流点付近には、マツ林やスギ林に囲まれた集落がみられる。この辺りでは、上流ほど川幅が広くないため、対岸の中の島の護岸の見えの高さがやや大きく感じられる。



朝酌川合流点上流側300m付近より対岸を望む

## 11. 朝酌川合流点～塩楯島付近

- ◆多賀神社と周辺のマツ、スギ林、周辺に広がる民家と差高のない水面などが特徴となっている。
- ◆また、中の島を挟んで剣先、朝酌の両河川があった中流部と比較し、対岸が近距離に感じられる。



対岸より多賀神社鎮守の森を望む



矢田の渡し付近より対岸を望む



◆「出雲国風土記」にも記載されている「矢田の渡し」が位置し、人と川との深いつながりを示すとともに、船着場や船が眺めにアクセントをあたえている。



「矢田の渡し」を望む

## 12. 塩楯島付近～中海大橋

◆河川内に塩楯島(島内には手間天神社あり)が位置し、景観上のアクセントとなっている。

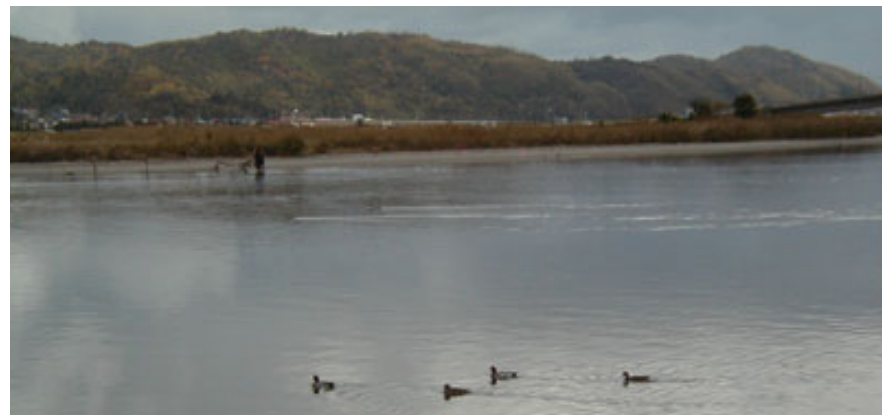


塩楯島付近より対岸を望む

- ◆塩楯島付近の左岸沿いの民家、差高のない水面、背後のマツ林などが特徴となっている。
- ◆塩楯島より下流はヨシ原となっており、自然の豊かさを感じさせる。



塩楯島付近より対岸を望む



中海大橋上流側400m付近より対岸を望む

## ●対岸景(右岸側)に関する考察

### 13. 宍道湖大橋～大橋

- ◆低層ならびに山陰合同銀行本店ビルに代表される高層のビルが混在している。



宍道湖大橋より右岸側を望む

◆護岸に関しては、ほとんどがコンクリートで整備されている。



穴道湖大橋～大橋中間地点付近より対岸を望む

## 14. 大橋～新大橋

- ◆小規模の商業施設が密集し、企業の看板なども見うけられる。
- ◆一方、売布神社境内の緑がアクセントとなっている。



新大橋北詰付近より対岸を望む



大橋北詰付近より対岸を望む

◆新大橋付近は、川沿いが公園として整備され、護岸の見え、水面との差高が非常に小さい。



大橋より右岸側を望む

## 15. 新大橋～くにびき大橋

◆背後に松江駅が位置し、(利便性の高さなどから)高層、低層の商業ビルが混在する。



くにびき大橋付近より対岸を望む



◆新大橋付近は、川沿いが公園として整備され、護岸の見え、水面との差高が非常に小さい。



新大橋北詰付近より対岸を望む



新大橋～くにびき大橋中間地点付近より対岸を望む

## 16. くにびき大橋～朝酌川合流点

◆くにびき大橋付近では、川沿いやその背後に、大小の商業施設やマンションなどが混在する。

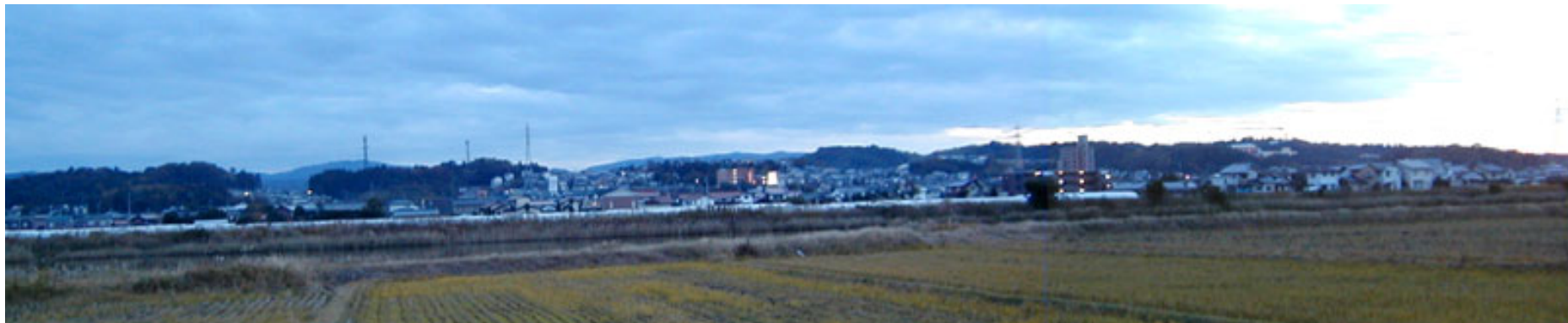


くにびき大橋下流300m付近(大橋川を航行する船上)より右岸側を望む

- ◆ 下流に近い地点では川沿いの宅地とともに農業用のビニールハウスが確認できるなど生活感を感じさせる。
- ◆ 背後には星上山からのびている稜線も確認できる。



朝酌川合流点上流側300m付近(大橋川を航行する船上)より右岸側を望む



朝酌川合流点上流側1km付近より右岸側を望む

## 17. 朝酌川合流点～塩楯島付近

◆宅地や沿川道路が分布する。その背後にはマツ林や丘陵がみられ、一部の丘陵地部には宅地(住宅団地)も見受けられる。



朝酌川合流点付近(大橋川を航行する船上)より右岸側を望む

◆「矢田の渡し」が位置する。



矢田の渡し付近より対岸を望む



塩楯島上流150m付近より対岸を望む

## 18. 塩楯島付近～中海大橋

- ◆中海大橋付近の川沿いには、昔ながらの集落があり、屋根の高さなどにも統一感がある。
- ◆護岸に関しては、石積み(空石)やコンクリートなど場所ごとに違いがみられる。一方で、護岸の見えの高さは小さく、水面の近さを感じさせる。



中海大橋上流側600m付近より対岸を望む

- ◆塩楯島付近より下流の右岸側は工場や宅地などがある。
- ◆背後には星上山からのびている稜線が確認できる。



塩楯島付近より対岸を望む

- ◆塩楯島は、左岸側と同様、景観上のアクセントとなっている。
- ◆一部で道路の高架がみられる。



塩楯島付近より対岸を望む



塩楯島下流250m付近より対岸を望む



## ●俯瞰景に関する考察

### 19. 宍道湖大橋～くにびき大橋

- ◆沿川の橋南、橋北での差異はほとんどなく、全体を通して低層と高層の建造物の混在が確認できる。
- ◆大橋川は、市の中心部を流れ、生活空間に近く、水面への視界も良い川であることを感じさせる。



山陰合同銀行より下流方向を望む

◆大橋から新大橋にかけての右岸側では、昔ながらの松江の商業地の町並みが見られる。



山陰合同銀行より下流方向を望む



山陰合同銀行より上流方向(呑口付近)を望む

## 20. くにびき大橋～朝酌川合流点

- ◆くにびき大橋付近から下流部にかけて広がる中の島や中州の水田は、自然の豊かさを感じさせる。
- ◆左岸側背後には、嵩山、和久羅山からのびる稜線も確認できる。
- ◆中の島や中州の緑がアクセントとなっており、大橋川独自の個性的な眺めを作り出している。



山陰合同銀行より下流方向を望む

## ●水上景に関する考察

### 21. 宍道湖大橋～大橋

- ◆水の流れに沿って、下流方向には大橋が架かり、その特徴である御影石の欄干、擬宝珠がはっきりと確認でき、松江市の歴史性を感じさせる。
- ◆大部分の範囲で、コンクリートの護岸が間近にみえる。



宍道湖大橋～大橋中間地点より下流方向を望む



宍道湖大橋～大橋中間地点より右岸側を望む

## 22. 大橋～新大橋

- ◆左岸側は、老舗旅館、見えの小さい護岸、ヤナギ並木、おだやかな水の流れなどが特徴となっている。
- ◆特に石積み護岸の表面形状もはっきりと確認できる。



新大橋付近より左岸側を望む

## 23. 新大橋～くにびき大橋

- ◆右岸側新大橋付近は、川沿いが公園として整備されている。
- ◆特に宍道湖遊覧船の乗場付近は、護岸の見えの高さも小さいことから、水との近さを感じさせる。



くにびき大橋付近より右岸側を望む

◆左岸側の新大橋付近は、川に面した住宅が建ち並び、人々の生活の営みを身近に感じる景観となっている。



くにびき大橋付近より左岸側を望む

## 24. くにびき大橋～朝酌川合流点

- ◆左岸側には、中の島の水田や緑地とともにその周辺で生息する水鳥などの生物も確認でき、大橋川の豊かな自然を間近に見ることができる。
- ◆下流側に近づいていくと朝酌川、剣先川が大橋川と合流し、開放的な空間の変化を感じさせる。



くにびき大橋下流500m付近より左岸側を望む



朝酌川合流点付近より左岸側(朝酌川方向)を望む



## 25. 朝酌川合流点～塩楯島付近

- ◆川の中心部に塩楯島が位置し、個性的な眺めとなっている。
- ◆また、塩楯島の周辺では水鳥も多く確認され、大橋川の豊かな自然を間近に見ることができる。



塩楯島上流400m付近より下流方向を望む

## 26. 塩楯島付近～中海大橋

- ◆最下流には中海大橋が架かっており、その大きさを感じさせる。
- ◆また、左岸側の湿生植生やその周辺で生息する水鳥など、大橋川の豊かな自然を間近に見ることができる。

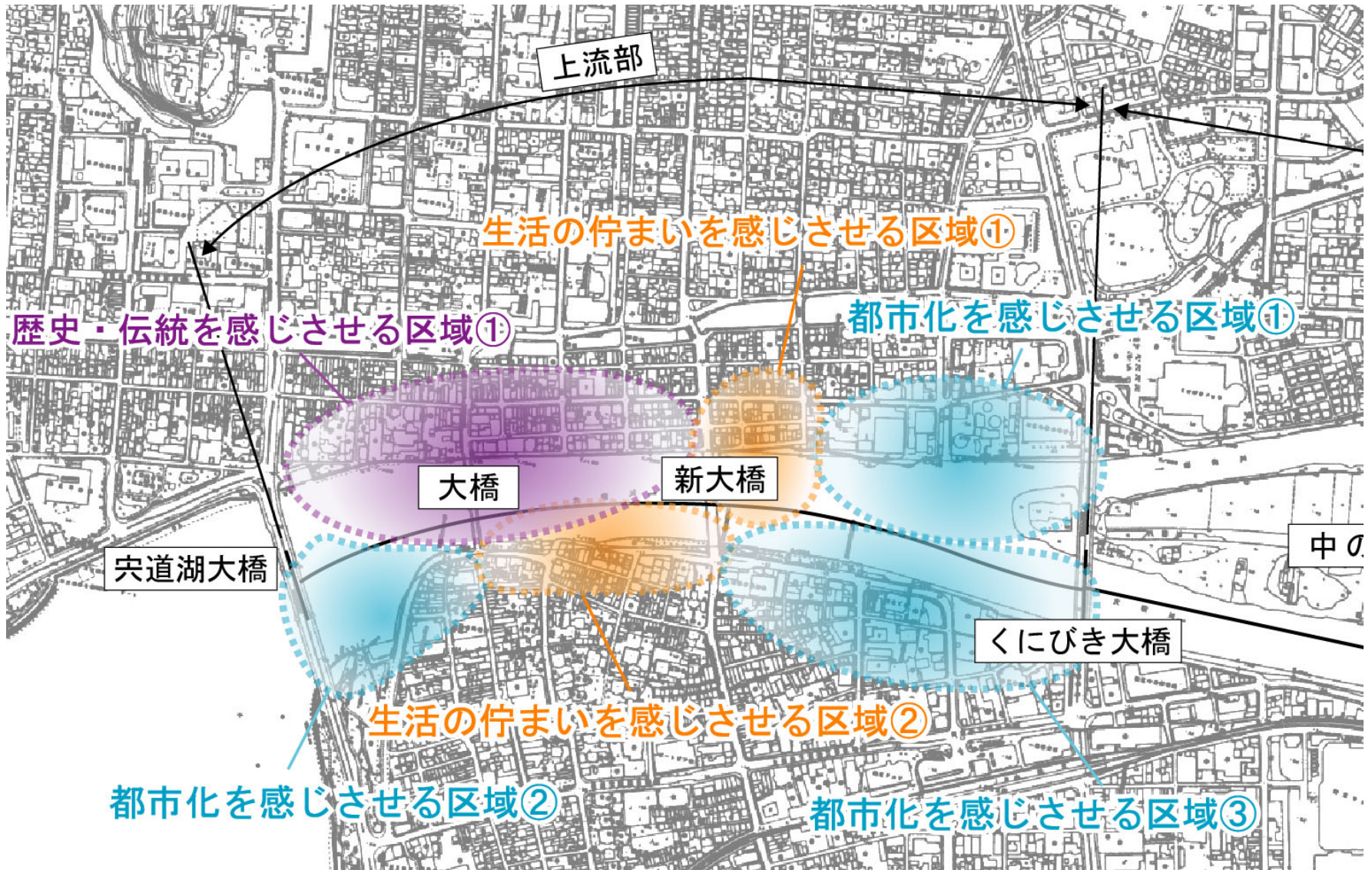


中海大橋上流500m付近より下流方向を望む



中海大橋上流500m付近より左岸側を望む

# 上流部景観特性区分図



## <景観特性区分(上流部その1)>

### ◆歴史・伝統を感じさせる区域① (宍道湖大橋—新大橋:左岸側)

大橋や老舗旅館が位置するとともに、それを引き立てるヤナギ並木が続くなど「国際文化観光都市 松江」の歴史・伝統を感じさせる景観となっている。



## <景観特性区分(上流部その2)>

### ◆生活の佇まいを感じさせる区域①

(新大橋ーくにびき大橋間の左岸側 新大橋寄り)

古くからの商業施設や民家が集まり、また、水辺ではシジミの選別が行われるなど、市民の生活の佇まいを感じさせる景観となっている。



## <景観特性区分(上流部その3)>

### ◆都市化を感じさせる区域①

(新大橋ーくにびき大橋間の左岸側 くにびき大橋寄り)

比較的大規模な公共施設、マンション等が立ち並ぶなど、都市化の進展を感じさせる景観となっている。



## <景観特性区分(上流部その4)>

### ◆都市化を感じさせる区域② (宍道湖大橋一大橋:右岸側)

山陰合同銀行本店ビルに代表されるように、いくつかのビルが立ち並ぶなど都市化の進展を感じさせる景観となっている。



## <景観特性区分(上流部その5)>

### ◆生活の佇まいを感じさせる区域② (大橋—新大橋:右岸側)

道路をはさんだ川沿いに昔ながらの民家や商業施設が立ち並び、また、市民が散策に利用する水辺の公園も位置するなど、市民の生活の佇まいを感じさせる景観となっている。





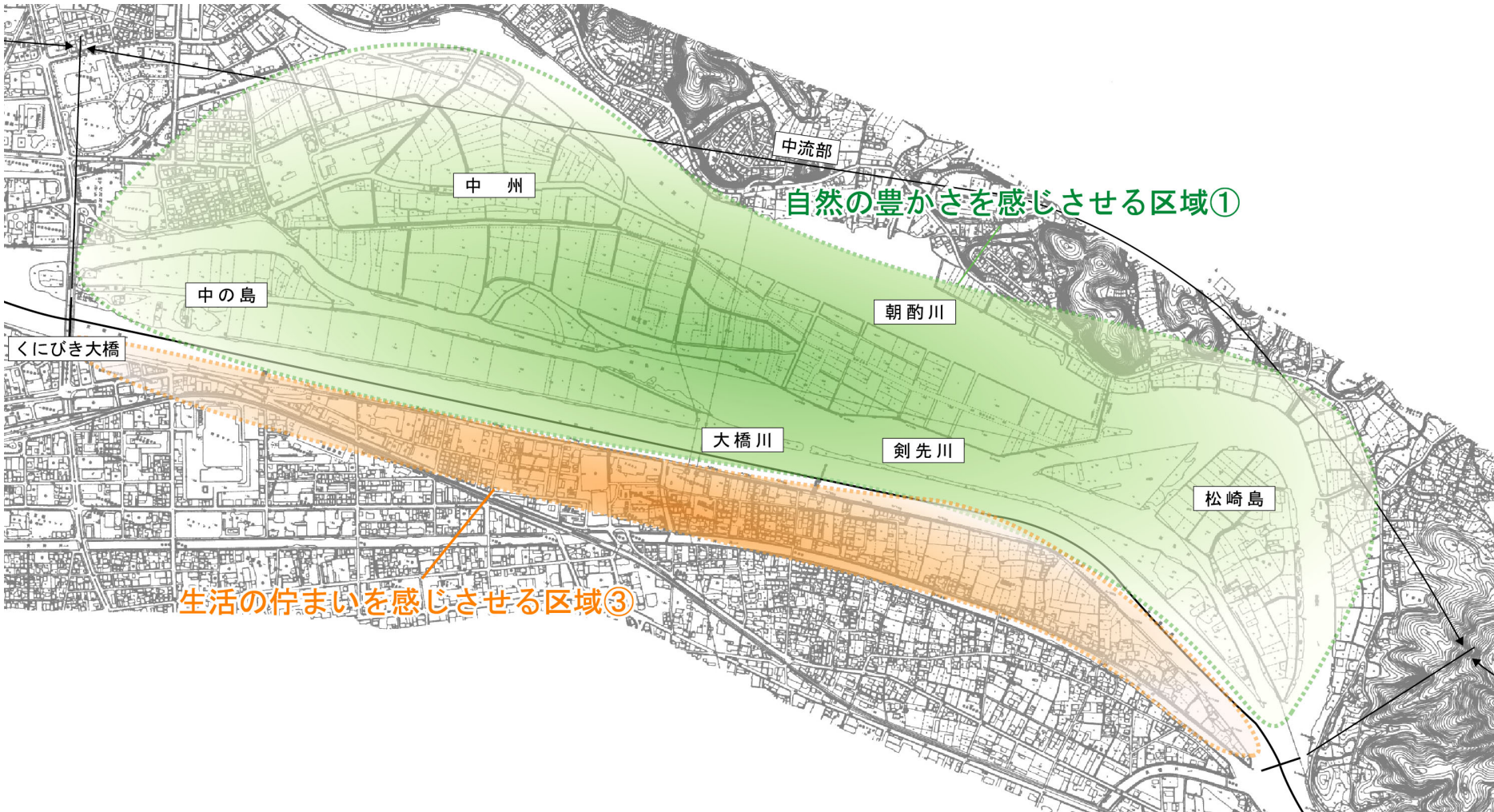
## <景観特性区分(上流部その6)>

### ◆都市化を感じさせる区域③ (新大橋一くにびき大橋:右岸側)

高層、低層の商業ビルが混在するなど都市化の進展を感じさせる景観となっている。



# 中流部景観特性区分図



## <景観特性区分(中流部その1)>

### ◆自然の豊かさを感じさせる区域①

(くにびき大橋－朝酌川合流点左岸側)

大規模な建造物も少なく、中の島や中州の水田・緑地が広がるなど自然の豊かさを感じさせる景観となっている。



## <景観特性区分(中流部その2)>

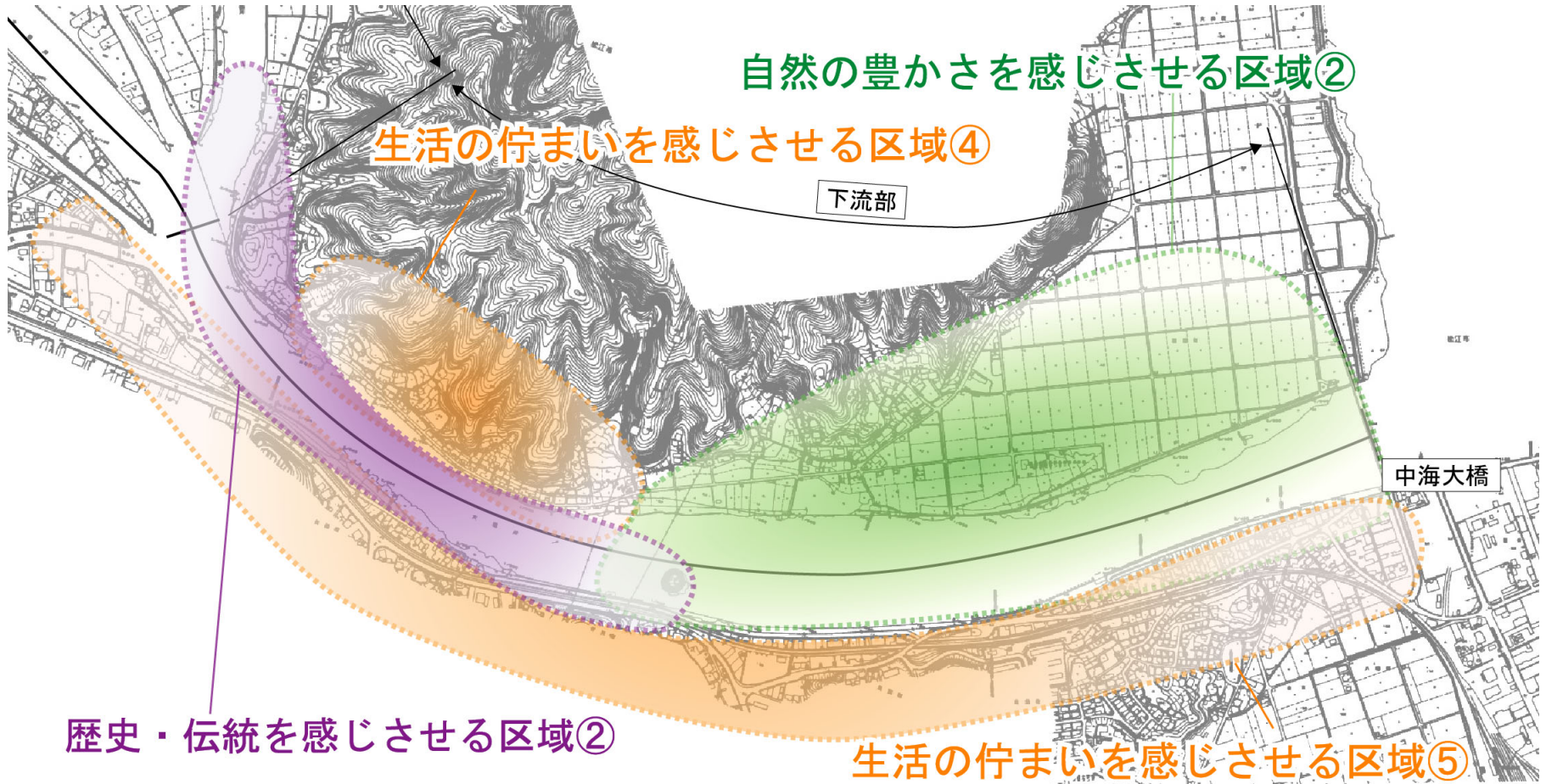
### ◆生活の佇まいを感じさせる区域③

(くにびき大橋一朝酌川合流点右岸側)

沿川には、道路、宅地、工場、商業施設、港などが分布するとともに、住民が釣りを楽しむなど、生活の佇まいを感じさせる景観となっている。



# 下流部景観特性区分図



## <景観特性区分(下流部その1)>

### ◆歴史・伝統を感じさせる区域②（多賀神社～塩楯島付近）

出雲国風土記にも記載の残る多賀神社、「矢田の渡し」とともに手間天神社がある塩楯島など歴史・伝統を感じさせる景観となっている。



## <景観特性区分(下流部その2)>

### ◆生活の佇まいを感じさせる区域④

(「矢田の渡し」～塩楯島付近:左岸)

長い間地域の文化的財産として受け継がれてきた「矢田の渡し」やその周辺の集落など、川とともに歩んできた生活の佇まいを感じさせる景観となっている。



## <景観特性区分(下流部その3)>

### ◆自然の豊かさを感じさせる区域②

(塩楯島手前付近～中海大橋:左岸)

川沿いの湿生植生やその背後の水田など、緑豊かな自然を感じさせる景観となっている。





## <景観特性区分(下流部その4)>

### ◆生活の佇まいを感じさせる区域⑤

(朝酌川合流点～中海大橋:右岸)

昔ながらの集落が川沿いに形成されるとともに、水辺では住民が釣りを楽しむなど、生活の佇まいを感じさせる景観となっている。



# 5. 景観特性を踏まえた事業実施のポイント

## 【老舗の旅館等】

### ●大橋川をほとりで見続けてきた歴史的資源



<注目すべきポイント>

●建物と水面、護岸、植栽等のバランス

## 【現況橋梁・道路】

### ●大橋に代表される重要な景観要素



#### <注目すべきポイント>

- 橋梁の印象
- 周辺景観とのバランス
- ほとりの静けさ・佇まい

## 【川沿いの神社・仏閣、古墳等】

### ●古くから守られてきた地域資源



<注目すべきポイント>

- 建物ならびに周辺環境(状況)
- 水面との距離感

## 【川沿いの公園】

### ●市民の憩いの場として利用される施設



＜注目すべきポイント＞

●水面との距離感

## 【矢田の渡し】

- 「出雲国風土記」にも記載されるなど「地域の歴史・文化的財産」



- <注目すべきポイント>
- 船着場へのアプローチ

## 【川沿いの集落】

### ●川とともに歩んできた生活の佇まい



#### <注目すべきポイント>

- 落ち着いた印象や独特の街並み
- 沿川住民と川との距離感(関係)

## 【つりスポット】

### ●地域住民の憩いの場



<注目すべきポイント>

●水面へのアプローチ



## 【ヤナギ並木】

### ●長年、市民に親しまれてきた散策路



### <注目すべきポイント>

- ヤナギ並木の印象
- 水面との距離感
- 護岸とのバランス

## 【護岸背後からの水面の「見え」】

- 場所によって、一区画、二区画背後からも確認できる水面



<注目すべきポイント>

- 水面の「見え」
- 沿川住民と川との距離感(関係)

## 【水際植生】

### ●豊かな自然環境



＜注目すべきポイント＞

●水際部の印象